

特集4

魅力ある大学院教育イニシアティブ

「リスクリサーチャー養成の教育プログラム —海外共同教育プログラムを中心に—

福田 敏浩 (経済学部教授)

平成15年4月に設置された大学院経済学研究科の博士後期課程「経済経営リスク専攻」は、社会人を対象にして、経済学及び経営学に基づきリスク研究能力やリスク管理能力を身につけた「リスクリサーチャー」を養成することを目的としている。この目的実現のためにカリキュラム面では授業科目を系統的に配置し、リスク研究の基礎から専門研究に至る知見を体系的に修得しうる工夫をこらしてきた。また院生の博士論文作成についてはその準備から完成に至るまでの全プロセスにおいて院生1名につき3名の教員を配置してきめ細かな研究指導を行い、3年の在学期間で博士論文を作成しうる態勢を組んできた。

大学院経済学研究科では大学院教育の実質化の一環として「リスクリサーチャー養成の教育プログラム」を企画し、文部科学省が募集した平成18年度「魅力ある大学院教育イニシアティブ」に応募したところ幸いにも多数の申請の中から採択された。平成18年度と19年度の2年間にわたり教職員一同全力を挙げて本プログラムを実施し、このたび所期の計画を達成する運びとなった。

「リスクリサーチャー養成の教育プログラム」は、①中国大連市にある東北財経大学での本研究科大学院生と東北財経大学院生を対象にした海外共同教育プログラムの実施、②本研究科院生の学会派遣事業と学会報告に係る環境整備及び③院生のRA・TAへの積極的採用による教育研究能力養成という三つの柱から構成されている。これらについてその実施状況を報告すると次の通りである。

(1) 海外共同教育プログラムの実施

「リスクリサーチャー養成の教育プログラム」の中核を占めるのは海外共同教育プログラムである。平成18年度及び19年度にそれぞれ夏季休暇を利用して本研究科の教員及び院生が東北財経大学に出向き、その施設において東北財経大学の教員・院生の参加のもとでリスク講義、リスク管理ソフト実習、ワークショップ、日系企業幹部による講演及び日系企業の現地調査等を実施し、日中両国の実情を踏まえた経済経営リスク、

実施期間	平成18年 8月31日～9月7日	平成19年 9月10日～9月17日
参加学生	本研究科院生22名 東北財経大学院生31名	本研究科院生25名 東北経済大学院生20名
参加講師	本研究科教員7名 東北財経大学教員3名 外部講師4名	本研究科教員12名 東北財経大学教員3名 外部講師2名
協力企業	講師派遣：みずほコーポレート銀行大連支店、 東芝産業機器システム有限公司 現地調査：東芝大連有限公司 リスク管理ソフト実習：ニッセイ基礎研究所	講師派遣：みずほコーポレート銀行大連支店、 マブチモーター大連有限公司 現地調査：中国華録・松下AVC有限公司

環境リスク、カントリーリスク等について共に考えかつ学び、教育交流及び研究交流の面で予想以上の成果を挙げることができた。本プログラムはわが国における経済経営系の国際的大学院共同教育においてパイオニア的な役割を果たし、ひとつのあるべき方向を示したのではないかと思料している

(2) 学会報告と学会派遣事業に係る環境整備

本研究科では博士論文提出の要件として最低2回の学会報告と3本以上の論文公表を義務づけているが、この要件を満たすためには教員による研究指導のほかに学会報告に向けての環境整備が不可欠である。その一環として学会報告に向けてのプレゼンテーション用機器の整備と学会報告への派遣事業を実施した。具体的にはプレゼンテーション用プロジェクターシステムを購入し、教員の指導のもとで院生の口頭報告技能を磨くための実習を実施し、また学会参加のための旅費等の支援を行い、所期の計画を達成した。

(3) 院生のRA・TAへの積極的採用による教育研究能力養成

院生の研究能力及び教育能力を高めるために成績優秀者をRA及びTAへ積極的に採用した。RAについては教員のリスク関連プロジェクトの補助業務、リスク関連文献のデータベース化業務及び翻訳業務等に従事させた。またTAについては経済学部におけるリスク関連授業及びデータベース化業務等に従事させた。これらの業務提供を通して院生の実践的リスク認識の涵養を図った。

以上に報告した2年間にわたる「リスクリサーチャー養成の教育プログラム」の実施は予想以上の成果を収め、経済学研究科における大学院教育の実質化に大きく貢献した。最後になったが、これまで多大なご支援ご協力を頂いた文部科学省、日本学術振興会はじめ学内外の関係者の皆様に誌面を借りて心から感謝申し上げます。



東北財経大学正門前にて